

# 山添村観光案内サイン整備ガイドライン

令和3年10月

山添村

## 目次

|                   |                           |         |
|-------------------|---------------------------|---------|
| I. ガイドライン策定の背景と目的 |                           | p.3-4   |
| II. 観光サインの現状と課題   |                           | p.4-5   |
| III. 観光サインの整備分類   |                           | p.6     |
| IV. 配置計画          | (1) 配置の基本的な考え方            | p.8     |
|                   | (2) 配置の基準                 | p.9     |
|                   | (3) 配置の「方向」の考え方           | p.10    |
|                   | (4) 案内、誘導のパターン            | p.11    |
| V. 設置計画           | (1) 情報量のコントロール            | p.13    |
|                   | (2) 掲出位置の基準               | p.14    |
|                   | (3) 掲出位置の基準（事例）           | p.15    |
|                   | (4) 掲出物の基準－表示面の制作         | p.16    |
| VI. 情報計画          | (1) 情報の整理と配置              | p.18    |
|                   | (2) 多言語対応                 | p.19    |
|                   | (3) 表記の基準－使用書体について        | p.20    |
|                   | (4) 表記の基準－使用ピクトグラム、その他の記号 | p.21    |
| VII. デザイン         | (1) 観光サインの基本仕様            | p.23    |
|                   | (2) 案内サイン－表示内容、デザイン       | p.24    |
|                   | (3) 誘導サイン－表示内容、デザイン       | p.25-26 |
|                   | (4) 説明サイン－表示内容、デザイン       | p.27    |
| VIII. 運用計画        | (1) ガイドラインの運用             | p.29    |
|                   | (2) 検証と振り返り               | p.30    |
|                   | (3) 観光サインのメンテナンス          | p.31    |
|                   | (4) 観光サイン整備のチェック項目        | p.32    |

## I. ガイドライン策定の背景と目的

### (1) ガイドライン策定の背景

山添村への来訪者の多くは、村内を車で移動することから、観光ポイントなどの目的地を円滑に回遊し、「村外の方からも愛される魅力ある村」にしていく必要があり、そのためには国内外の旅行者など山添村をよく知らない来訪者の立場に立った、わかりやすいサインによる誘導が不可欠である。

しかしながら、山添村観光案内サイン（以下、「観光サイン」という）は、表記の不統一やメンテナンス不足から、わかりやすい表示となっていないものが一部にあること、また、外国人観光客に対応した観光サインの整備が不十分などの課題があり、今後更なる観光サインの整備が必要となる。

こうした状況を踏まえて、本村観光振興を図るためには、国内外からの観光客を受け入れる基盤として、円滑な案内や誘導が重要であることから、観光客にとってわかりやすい観光サインの整備を目指すため、本ガイドラインを策定した。なお、本ガイドラインはやまぞえ未来創生計画の「観光客に優しい村づくり」に基づき、令和7（2025）年度までに観光サインの整備を目指すものとする。

### (2) ガイドライン策定の目的

既に、一部の観光サインにはピクト付加、英語付加されており外国人観光客への配慮もみられるが、アジア圏、その他の言語圏の観光客にも配慮した、更なる言語のバリアフリー化が望まれる。さらに、ユニバーサルデザインの観点からは、車椅子利用者等、誰もが利用しやすいものにしていく必要がある。

また、山添村内の観光サインとしては、各観光ポイントへ観光客を誘導するためのサイン、車両を誘導するためのサインなど対象に応じた表記ルールの規格化、デザインの規格化が要求される。

今後、観光サインを整備していくにあたっては、事業主体が別々のものを整備するのではなく、一

定のレベルで共通の仕様として統一の認識で整備を図っていく必要がある。

以上のことから、本ガイドラインは観光客等の来訪者に情報提供していくための共通仕様を定め、今後の観光サインの整備に関する基本的なあり方を示すものとする。

## II. 観光サインの現状及び課題

村内における観光サインを調査した結果、現状の課題としては次のように整理できる。

### (1) 維持補修に係る現状及び課題

#### 1. メンテナンスの不足

設置済みの観光サインによっては、老朽化による盤面の劣化や破損が生じている。

また、施設や道路について古い情報のままになっているものがある。

#### 2. 周辺環境の整備の不足

観光サイン周辺の植え込みや構造物が適正に管理・配置されていないことなどにより、表示が見えにくくなっているものがある。

### (2) 表示に係る現状及び課題

#### 1. 現在地情報の欠如

地図による観光サインについて、現在地の情報が欠如しているものがある。

周辺と空間的な関連性や方角の確認、周遊促進のためにも、現在地情報は不可欠と考えられる。

#### 2. 指示標識の距離表示の欠如及び誤り

矢印で観光施設に誘導する誘導サインはあっても、距離が記載されていないものや誤っている

ものがある。

### 3. 外国語表記の不足

外国人観光客の来訪がある観光地において、誘導サインが日本語のみで記載されている場合が多い。

### 4. ローマ字表記の誤使用

観光地や観光施設名をそのままローマ字表記しており、外国人観光客にとっては案内対象が何を意味しているのか分からない場合がある。日本語標記での統一はもとより、外国語標記の場合の統一も求められる。

## (3) 設置に係る現状及び課題

### 1. 連続性の欠如

目的地に向かうための誘導サインは、ルート上に連続して設置し、継続した案内を行うことが求められるが、連続性が欠如している場合がある。

### 2. 説明サインの統一感の欠如等

デザインや色彩が統一されていないため、景観を阻害している場合が見受けられる。

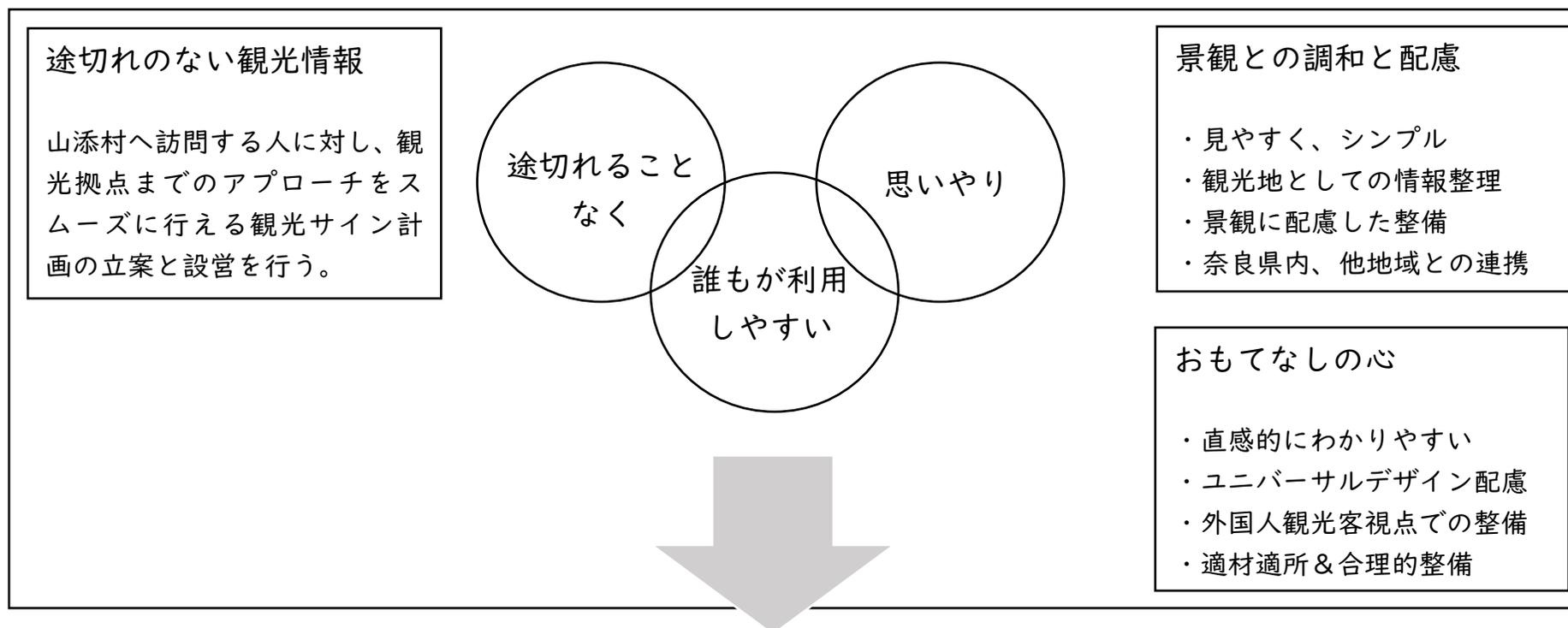
また、極めて近い距離の間で別の盤面として説明サインが設置されている場合がある。

### Ⅲ. 観光サインの整備分類

| (1) 案内サイン   | (2) 誘導サイン   | (3) 説明サイン  |
|---|---|--|
| <p>ピクトグラムや、イラストなど駆使し、現在地から周辺施設等の位置関係を記した観光案内地図等</p>   | <p>目的とする観光案内施設及び文化財への方向及び距離等を表示し誘導するためのサイン</p>  | <p>地域や、観光施設及び文化財の説明、利用方法などを記載した文章が基本となるサイン</p>                                       |
| <br> | <br> |  |

## IV. 配置計画

## (1) 配置の基本的な考え方

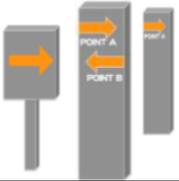


配慮の考え方：利用者にわかりやすい観光サインの配置について、以下のとおり考え方を示す

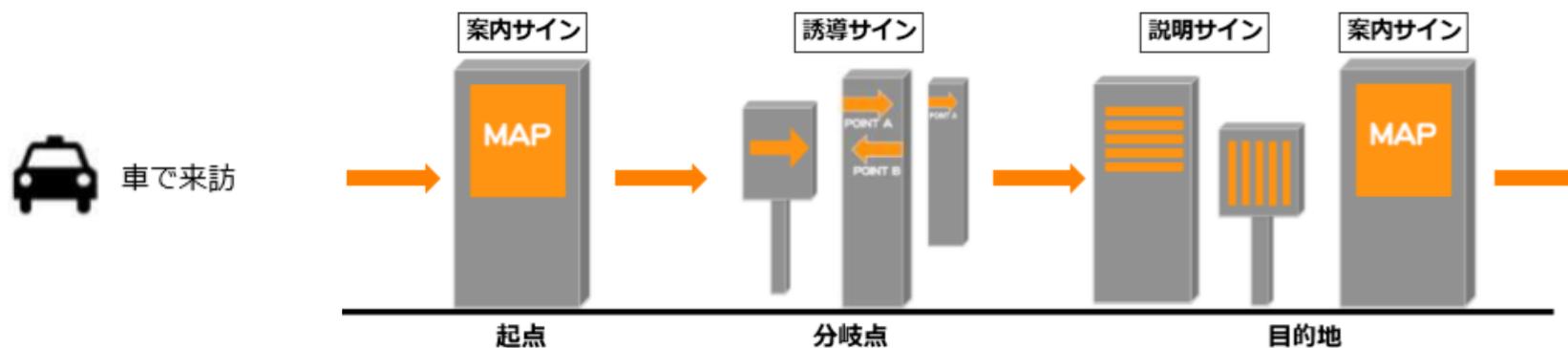
- 過剰な配置を避ける 既存の観光サインを整理、統合し、最小限必要な配置とする。
- 配置のルール化 最初の一步となる地点には案内サインあるいは誘導サインがある。  
(○○には□□の情報が必ずある)
- 利用者が多い場所に必要な情報を配置 主要な交差点、著名地点などに配置する。
- 景観に配慮した配置 自然、歴史的景観を阻害する配置としない。
- 情報が途切れない配置 主要なルートにあっては情報の連続性を確保する。
- ユニバーサルデザインに配慮した配置 誰にでもわかりやすく、見やすい配置とする。

## (2) 配置の基準

本ガイドラインにおいて対象とする観光サインの種類、基本システムを以下に整理する

| 観光サインの種類   | 基本の掲載情報   | 必要に応じて掲載する情報 |
|--|---|--------------|
| 案内サイン<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺の案内地図（付近）</li> <li>・ 方位</li> <li>・ 現在地</li> </ul>            | 周辺著名地点の誘導    |
| 誘導サイン<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 周辺の著名地点</li> <li>・ 周辺の公共交通</li> <li>・ 方位</li> </ul>            |              |
| 説明サイン<br> | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 施設名称</li> <li>・ 施設サイン</li> <li>・ 説明</li> <li>・ 注意喚起</li> </ul> | 周辺著名地点の誘導    |

### ●基本となるシステム 観光サインによる案内、誘導の流れ



### (3) 配置の「方向」の考え方

#### 案内サイン地図の表示方向



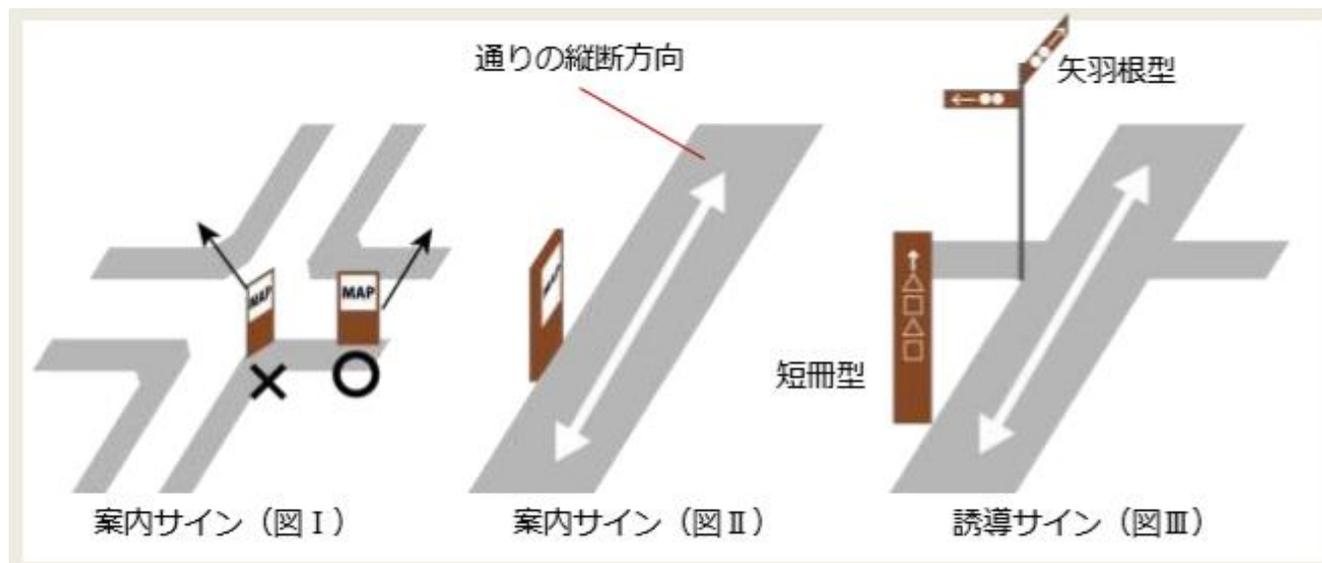
案内サインの地図は、実際の地形と地図の表示方向を合わせる。

[理由]

：地図表記（2km 四方程度）では、目印となる施設や通りと地図を見比べやすい。

：自分の立っている方向と地図の方向が一致しているのでわかりやすい。

#### 案内・誘導サインの設置方向



・交差点部での案内や誘導サインの設置向きは、斜め配置としない。  
（通りと平行に設置する）（図I）

[理由]：通りとの関係があいまいとなり、方向感覚がつかみにくい

・案内サインの設置向きは、通りの縦断方向に対して水平に設置する。（図II）

[理由]：設置スペースを確保しやすい。（歩道幅員を減じない）

：直近の通りとの位置関係がわかりやすい。

・誘導サインは、矢羽根型は表示板面を目的地の方向に向けて設置する。（図III）  
短冊型については通りの縦断方向に対し直交して設置する。

[理由]：矢羽根型 ~ 直接目的地を指し示すため、直感的にわかりやすい。

：短冊型 ~ 表示が歩行者の目に入りやすい。

## (4) 案内、誘導のパターン

観光サインの案内、誘導パターンを以下に示す

・名阪国道五月橋・山添・神野ロインターチェンジ付近の案内サインで、現在地、方角、目的地との位置関係を大まかに確認する。  
 ※案内サインの情報とスマートフォン等の情報とを確認する。

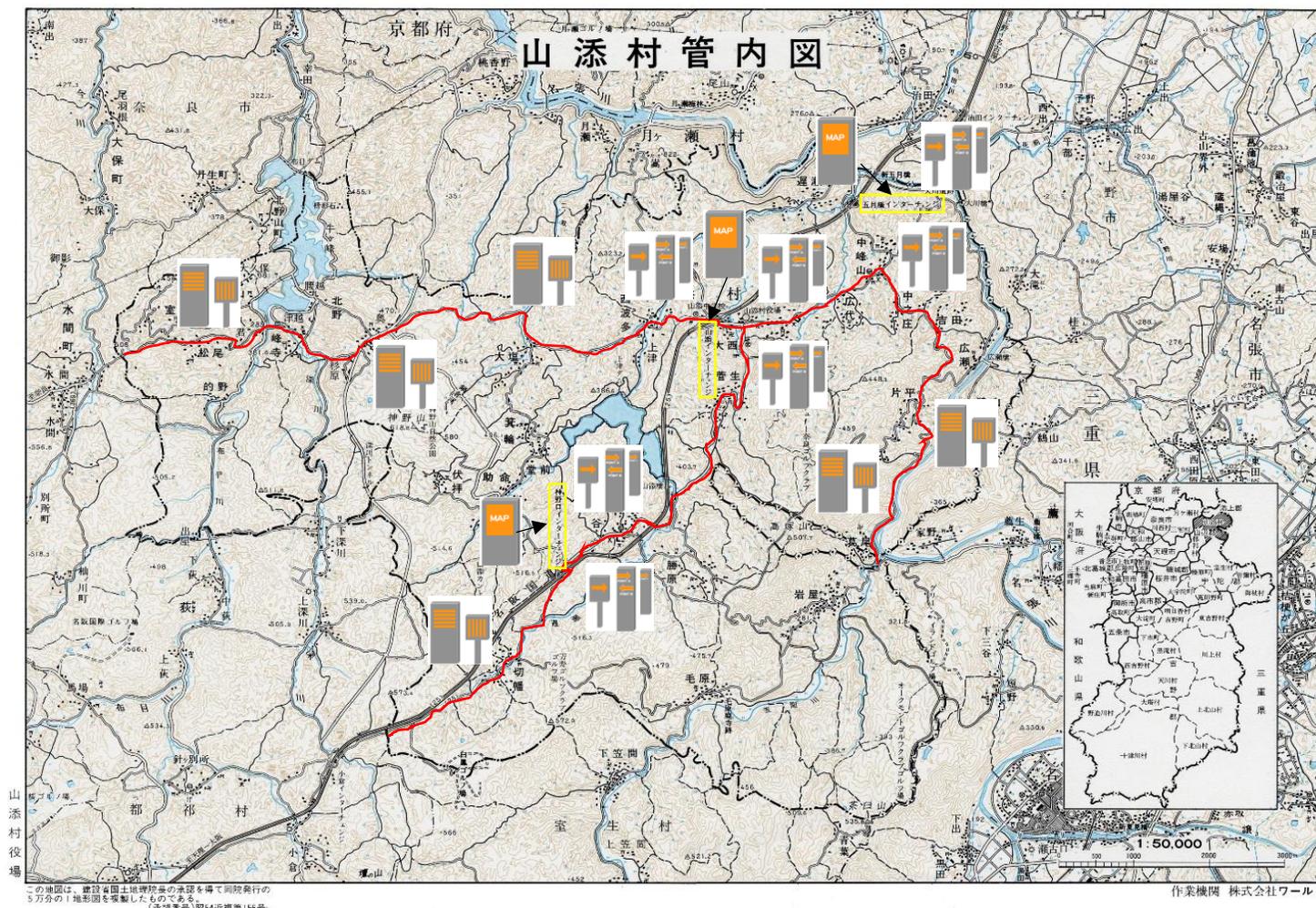


・名阪国道五月橋・山添・神野ロインターチェンジまたはルート上の分岐点で誘導サインを確認しながら目的地を目指して移動する。



目的地（交通拠点・観光施設）

・説明サインやウェブサイトなどから情報を得る。  
 ・目的地周辺の案内サインを確認し、次のルート（目的地）を目指す。



## V. 設置計画

## (1) 情報量のコントロール

観光サインの数量をコントロールし、利用者にわかりやすい観光サインを目指す。

考え方

撤去

- 既存の観光サインで情報提供が過剰な場合は、不要な観光サインを撤去する。



不要な観光サインの撤去

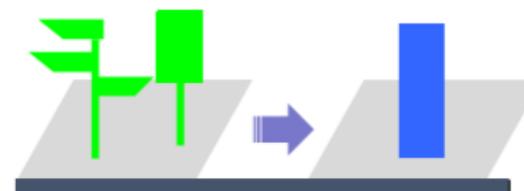
改善  
集約

新設  
刷新

- 情報を集約する。
  - ・合理的に既存の観光サインをリノベーションすることで、情報の集約化を図る。
  - ・複数の既存観光サインを新設観光サインに置き換えることで、情報の集約化を図る。



既存観光サインをリノベーション



複数の既存観光サインを新設の観光サインに置き換え

■ 既存観光サイン    ■ 改修観光サイン    ■ 新設観光サイン

## (2) 掲出位置の基準

### 表示の掲出高さ（見易さの視点）

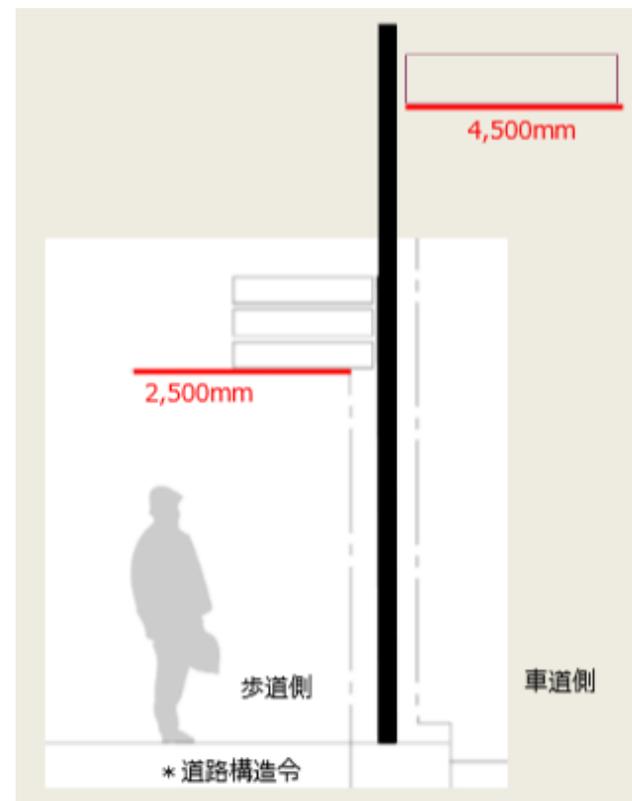
案内サインの掲出高さは、地面から1350mmを中心に、最高高さを2000mm、最低高さを500mmの範囲を原則とする。

※公共交通機関の旅客施設に関する移動円滑化整備ガイドライン（国土交通省HI9）



### 表示の掲出高さ（道路構造令より）

道路につきだす観光サインの場合、歩道側の観光サイン板面は下端を地面から2,500mm以上に設置する。車道側の観光サイン板面は下端を地面から4,500mm以上に設置する。



### (3) 掲出位置の基準 (事例)

案内サインの掲出高さは、地面から 1,350mm を中心に、最高高さを 2,000mm、最低高さを 500mm の範囲を原則とする。

地上高  
500mm  
を確保



※案内サインは利用者が注視するために表示面が低位置にあると認識しにくい。

## (4) 掲出物の基準－表示面の制作

### ■材質

#### ・木材

軽く、加工がしやすく、一般的には風合いを出しやすい。木材の種類によっては比較的安価に製作することが出来るが、強度が低い  
ため大型のサインには不向き。風雨による劣化で耐久年数は鉄骨に比べ短く、短・中期用での使用とする。腐食防止塗料や浸透を施す  
こと。

#### ・鉄骨

強度があり、溶接をすることで大きな看板も製作することが可能。風雨や潮風により錆が発生するため、防錆加工等の塗装が必要にな  
る。大きな看板は重量が重くなるため、しっかりとした設計や基礎工事が必要。

#### ・アルミ

錆びにくいため使用場所を選ばない。鉄骨よりも軽量だが、強度は弱いため比較的小型のサインや鉄骨と組み合わせて表示面に使用。

#### ・その他の素材を使用する場合でも、素材の特徴を鑑み、地震や強風など災害が発生しても倒壊・落下等がおきないように、地震などの振 動・衝撃や風圧に対して十分な強度を有する設計・施工を行う。

### ■印刷方法等

#### ・地図等の表示面の表面保護については、状況に応じ、UVカットラミネートや張り紙防止、落書き防止対策を施すことが望ましい。

#### ・地図等の表示面は粘着シートにインクジェットで印刷し、地図面の修正の際には、必要な部分の粘着シートで、現地にて特別な工具等 を必要とせずに貼付けができるなど、維持管理がしやすいよう工夫する。

#### ・印刷方法／インクジェット出力、メディア／塩ビフィルム、出力6色食油性顔料インク、表面保護／UVカットラミネート（屋外耐候 5年）、施工性／粘着シートにインクジェット印刷しているので、現場での貼付け施工が可能であり、新しい情報（修正等）もその部分 だけを出力して貼れるので施工が容易にできる。

### ■色彩

#### ・バリアフリー施設に関わる表示は、見やすく容易に識別できるものとする。

#### ・案内サインの図色と地色の明度の差を十分大きくすること等により、容易に識別できるものとするのが望ましい。

#### ・色覚障がいのある人に配慮して、表示要素ごとの明度差を確保することに留意し、また赤と緑の色面どおしの組み合わせは用いない。

#### ・案内サインに用いる色は、色数が増えると煩雑になるため多くの色を用いないことが望ましい。また、色により墨文字が見にくくなる 色は使用しないことが望ましい。

#### ・案内サインに用いる色は、退色を考慮した色とすることが望ましい。

## VI. 情報計画

## (1) 情報の整理と配置

外国人が日本を観光旅行する場合に最大の障壁となるのは、言語の違いから必要な情報が十分に得られないこと。この外国人観光客の立場をよく考えた上で、情報を提供する側では、「外国人観光客の立場に立った、きめの細かい表示システム」の整備が必要であり、以下のことに配慮することを認識する。

### ●ホスピタル精神

外国人観光客の「不安」を無くす、「不便さ」を無くす、「不自由さ」を無くすための必要性や情報の重要性等を考慮して案内表示等の多言語化事業を行う。

### ●周囲の景観や美観に調和

形や表現を統一し、設置される場所に違和感のないカラーリングを考慮し、周辺施設の雰囲気と協調した、観光サイン計画を創出。当該施設のイメージに合うようにする。

表示内容は、わかりやすさを優先し情報量をコントロールする。可能な限り、QRコードを活用する。

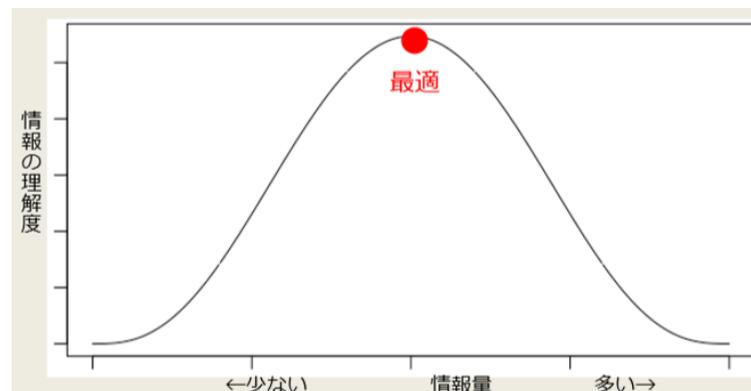
情報の優先順位を明確にする

その場所で一番重要な情報を絞り込む

- ・情報量の補完
- ・情報の理解を促す工夫

最適な場所での情報配置

- ・起点となる場所で最初の一步を促す観光サイン等、利用者の目線に立った情報提供



### ■表示のグラフィックデザインの工夫

統一的なデザイン（ピクトグラム等の図や記号を活用・文字の大きさやレイアウトのメリハリ）

### ■各種の媒体を用いて相互に補完

手元マップやデジタル情報との連携、QRコードを利用した多言語ウェブサイトや翻訳システムなどの活用

### ■ユニバーサルデザインへの対応

ユニバーサルフォント（対応できる言語のみ）や、JIS規格ピクトを用い、より多くの方への「おもてなし」を図る。

### ■施設の特性に応じた機能的な整備

施設のコンセプトに配慮したうえで看板検証を実施するとともに、当該施設のイメージと合致するようにする。

ただし、デザインを重視するあまり視認性が欠けることが無いような設計をする。

## (2) 多言語対応

多言語対応については表示面の大きさと情報量とのバランスを考慮し、以下の方針を立てる。

### 対応言語の考え方

多言語対応は原則 2 か国語表記（日本語・英語）とする。

誘導表記など情報量が限定されているものについては、4 か国語または 5 か国語表記も検討する。

※4 か国語（日本語・英語・中国語<簡体字>・韓国語）、5 か国語は中国語<繁体字>が加わる。

| ●メリット/デメリットの整理                       | メリット  | デメリット   |
|--------------------------------------|---|---|
| 2 か国語表記（日本語、英語）                      | ・ 4 か国、5 か国語表記と比較して観光サインの表示がシンプルでわかりやすい。                              | ・ 英語に不慣れな人には情報が理解できない場合がある。   |
| 2 か国語+最小限の外国語表記（日本語、英語+その他の言語）       | ・ 4 か国、5 か国語表記と比較して観光サインの表示がシンプルでわかりやすい。<br>・ 最小限の表記でも、その国の人にはわかりやすい。 | ・ その他の言語を何にするかの判断が必要。<br>・ 観光サインの表示が煩雑、且つ文字の大きさが小さくなる。                                    |
| 4 か国語表記（5 か国語表記（日本語・英語・中国語<簡体字>・韓国語） | ・ 近年来訪者が多い中国系、韓国系の観光客に対して母国語で情報提供できる。<br>・ もてなしを受けている満足感がある。          | ・ 言語数が増えることにより、さらに観光サインの表示が煩雑、且つ文字の大きさが小さくなる。特に日本人にとってわかりにくい。<br>・ 翻訳の内容チェックなど、制作の難易度が高い。 |

案内標識により情報提供を行う場合には表示するスペースに限りがあるため、日本語に加え、代表的な言語である英語と、視覚により情報伝達が可能なピクトグラムの 3 種類を用いた情報提供を行うことを基本とする。

### (3) 表記の基準－使用書体について

#### ●日本語書体はユニバーサルデザインに準拠

##### UD新ゴ

- L 暮らしのシーンで活躍するUD書体
- R 暮らしのシーンで活躍するUD書体
- M 暮らしのシーンで活躍するUD書体
- DB 暮らしのシーンで活躍するUD書体

#### 使用書体

観光サインには判読性の高い書体を使用する。

- ・以下に標準的な文字の太さ（Medium）の書体を示す。  
使用する文字の大きさ等に応じて、太い（Bold）・細い（Regular）を使い分け、判読性を高める。

・日本語については視認性の高いUD（ユニバーサルデザイン）フォントの使用を推奨する。

#### －書体選定のポイント－

- 可読性：文章、文字列としての読みやすさ
- 視認性：文字を明確に視認できる見やすさ
- 識別性：他の文字と判別でき、誤認しないわかりやすさ

#### 観光地や観光施設名の表記

英語の表記は国の基準に基づき、固有名詞はローマ字、普通名詞は英語で表記する。

\*「観光活性化標識ガイドライン」（国土交通省 H17）  
寺院・神社など観光施設等の名称はすべて固有名詞として扱う。

－参考－ 英語表記の方法 ※ローマ字はヘボン式とする。

A. ローマ字 + 英訳 Kouno Temple

B. ローマ字 + ローマ字 Kouno-ji

 C. ローマ字 + ローマ字 + 英訳 Kouno-ji Temple

外国人に対しても日本人に対しても理解可能な C 案を推奨する

\*財団法人 都市づくりパブリックセンター

「歩行者のためのコミュニティサイン」（H5）

## (4) 表記の基準－使用ピクトグラム、その他の記号

単なる言語の多言語化だけを目指すのではなく、文字がなくても意思の疎通（移動の円滑化）がはかれる様、ピクトグラムや記号を活用する。オリジナルピクトグラムも含めホスピタリティ豊かなデザインを創出。エリア性やジャンルによりカラーリングも考慮。

### 使用ピクトグラム

### その他記号

JIS 案内用図記号を使用する



### ●方位記号



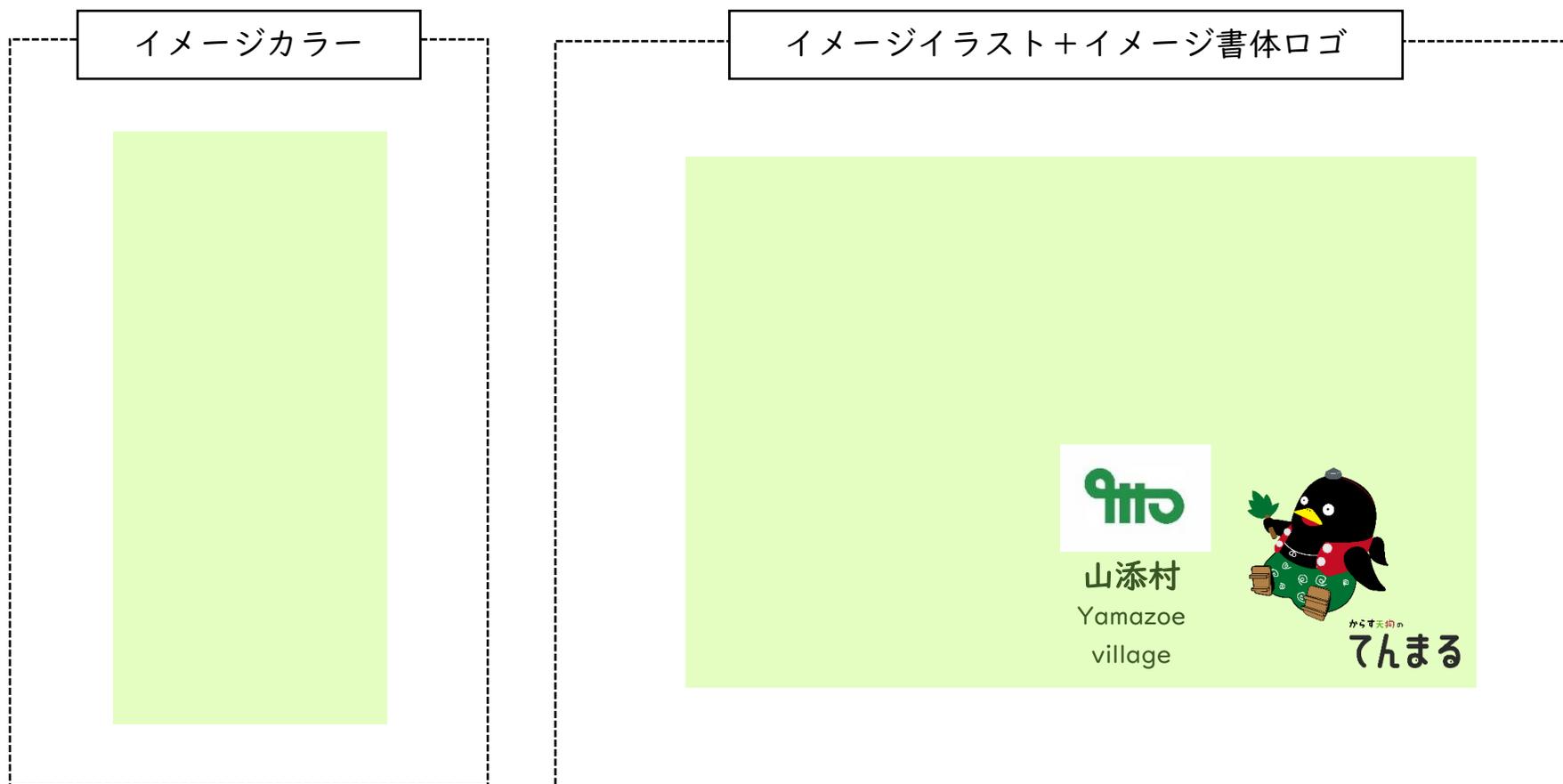
### ●現在地記号



## VII. デザイン

## (1) 観光サインの基本仕様

観光サインの基本色を決定し、サイン表示面にイメージ書体およびイメージイラスト、村ロゴマーク等をスペースの可能な限り配置する。ただし、周辺の景観と協調し、当該施設のイメージに合うようなものとする。



## (2) 案内サインー表示内容、デザイン

### 案内サイン記載必須項目

- ・ピクトグラムの記載
- ・現在地の記載（英語必須）
- ・主要観光スポット、エリアの協調
- ・多言語化

### <表示内容>（例）



～ぬくもりあふれる夢とロマンの里～ 山添村観光案内図

Yamazoe Important Preservation District for  
Group of Traditional Buildings Guide map



QR  
コード

### <デザイン>（例）

混乱を防ぐために、案内サインは、交通拠点や観光案内所で配布する手持ちマップ（印刷物等）との記載内容（名称・ピクトグラム等）を統一しなければならない。

### (3) 誘導サインー表示内容、デザイン

#### 誘導サイン記載必須項目

- ・ 方向を示す矢印
- ・ 目的地までの距離 (●●m)
- ・ 必要な場合のピクトグラム
- ・ 多言語化

#### (短冊型)

<表示内容>  
(例)



<デザイン>  
(例)



### (3) 誘導サインー表示内容、デザイン

#### 誘導サイン記載必須項目

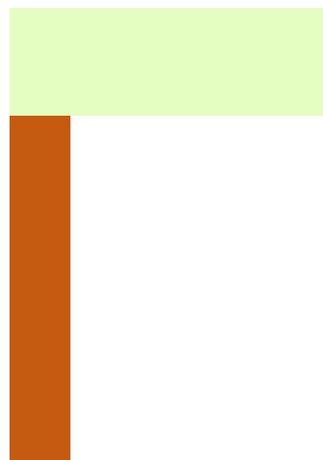
- ・方向を示す矢印
- ・目的地までの距離 (●●m)
- ・必要な場合のピクトグラム
- ・多言語化

#### (矢羽根型)

#### <表示内容> (例)



#### <デザイン> (例)



## (4) 説明サインー表示内容、デザイン

### <表示内容>

(例)

# 牛ヶ峯岩屋栴型 村指定名勝

一枚の巨石が自然に分裂したもので、そびえ立つ断崖絶壁（約16m）には栴の型が切り込まれ（栴型）、転がり落ちた岩には4.85mの大日如来像が刻まれ、その底部の岩窟には護摩壇が設けられています（岩屋）。言い伝えによると弘法大師が大日如来を彫り、使用した「のみ」と「つち」を栴型を納めたといわれています。

Ushigamine Iwaya Masugata Site of Scenic Beauty Designated by Yamazoe Village  
This approximately 16m high precipitous cliff has a deep, square-shaped cut on it. There is a 4.85m image of Dainichi Nyorai or Mahavairocana carved on the surface of the rock below and a gomadan, or an altar used in homa fire rituals, in the cave at the base of the rock. Legend has it that Kukai created this Iwaya Masugata as a sacred place, and that he stored the tools he used for carving the image of Dainichi Nyorai in this masugata, cut deep into the precipitous cliff. Kukai(774-835) was a monk of the early Heian Period who influenced Buddhism in Japan by introducing the Shingon school of Buddhism from China and establishing temples such as Kongobu-ji Temple and Kyo-o Gokoku-ji Temple.

QR  
コード



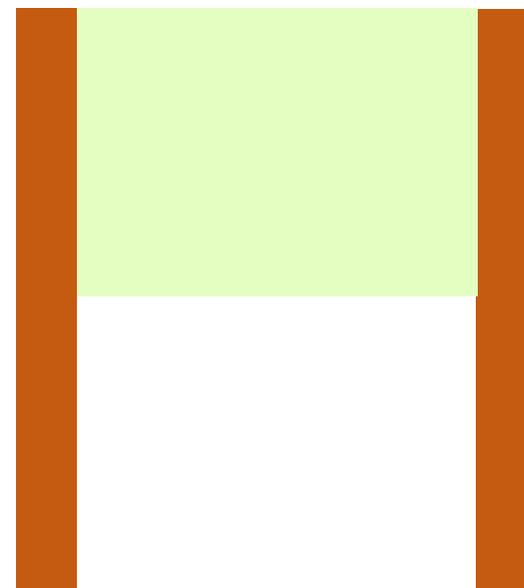
山添村

Yamazoe  
village



### <デザイン>

(例)



## VIII. 運用計画

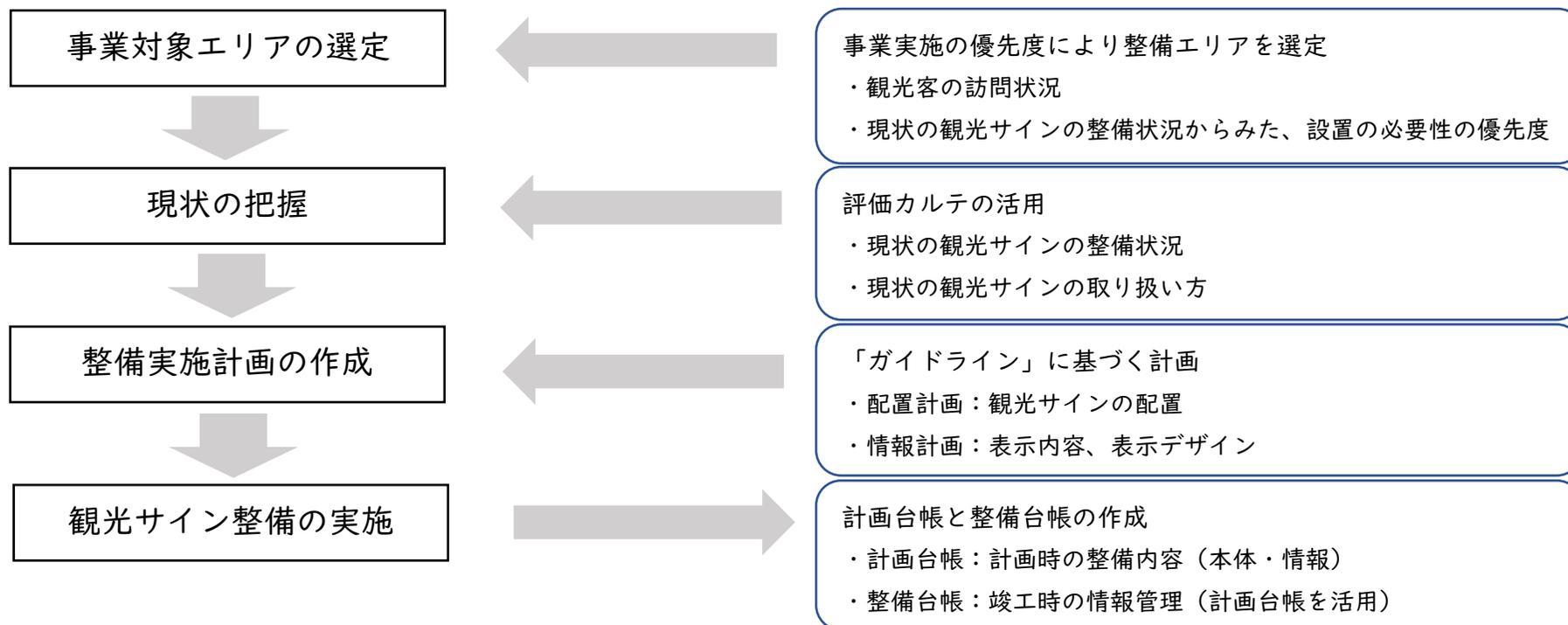
## (1) ガイドラインの運用

### ・ガイドラインの適用について

「ガイドライン」は山添村が行う観光サイン整備の考え方を示したものであり、今後、山添村内において展開される公共サインの整備についても、その適用が望まれる。また、民間事業者についても「ガイドライン」に示された考え方にもとづいた整備が推奨される。

奈良県ではすでに景観条例、屋外広告物条例が定められており、観光サインに関しても一定のルールが示されている。「ガイドライン」はこれと整合を図っていくとともに、厳格なルールとしてデザインを規制していくものではなく、関係者間の合意形成を図る際の指標として運用されることが望ましい。

### ・ガイドラインを活用した整備の手順を以下に示す。



## (2) 検証と振り返り

### ●検証

観光サインの整備においては、事業実施時及び整備後に検証を行う

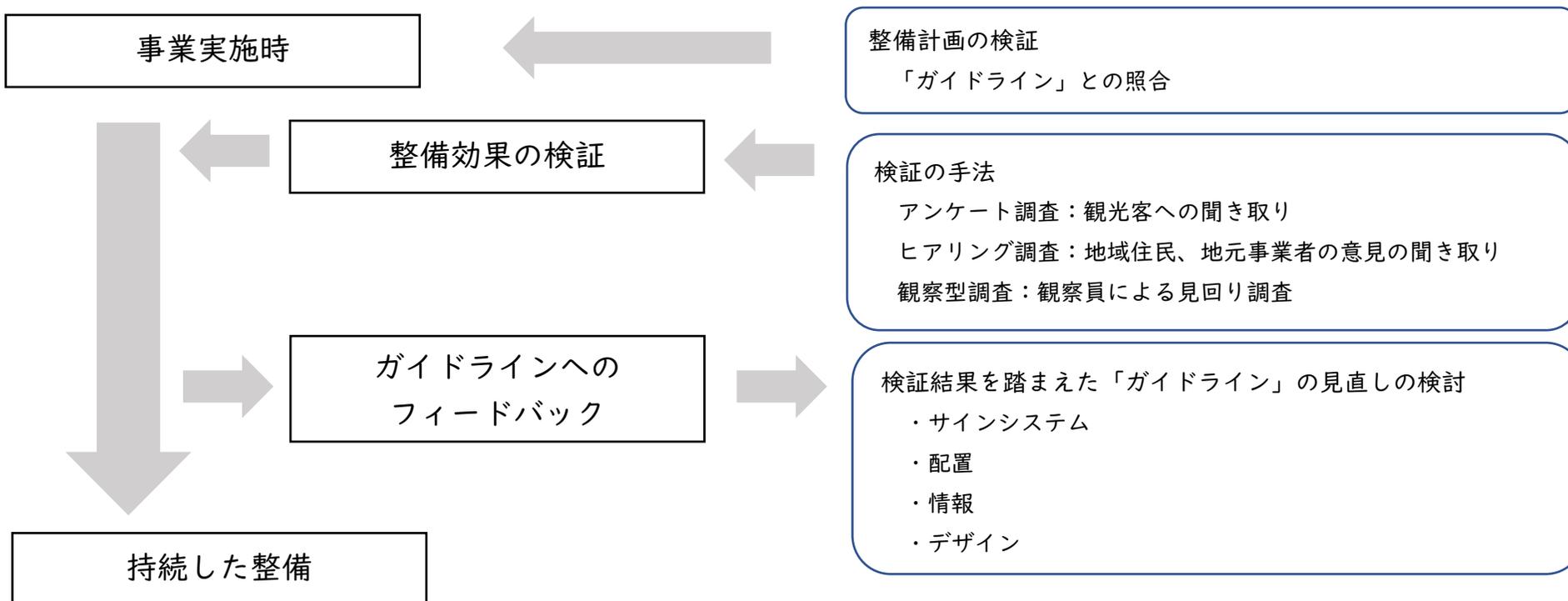
事業実施時：実施計画と「ガイドライン」の照合

整備後：整備効果の検証

### ●振り返り

検証により整備や整備効果に問題がある場合は、「ガイドライン」の見直しや改修の検討を行う。

### ●検証と振り返りの考え方



観光客の動向は変化するため、配置、掲出情報等数年毎に見直し、不要な観光サインは整理及び撤去する。

### (3) 観光サインのメンテナンス

#### ●目的

- ・観光客（利用者）にとって真に役立つ観光サインであり続ける。
- ・むらの景観価値を下げない。上昇させることを目指す。



観光客の満足度の向上  
⇒来訪者の増加  
⇒地域価値の向上  
⇒地元住民の満足度の向上

#### ●役割

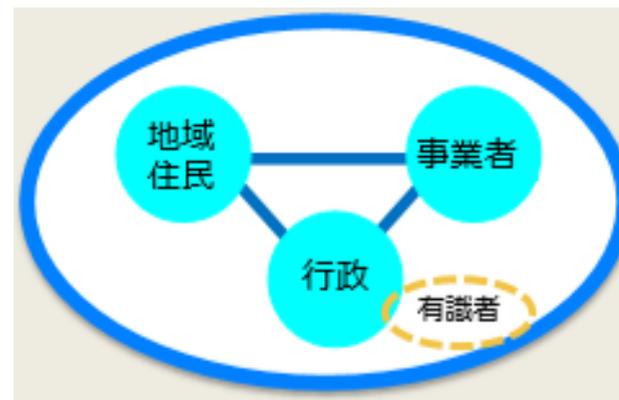
- ・破損、老朽化の対応
- ・情報の更新、情報ニーズの変化への対応
- ・日常的な清掃管理



キレイで役立つサインであるために

#### ●体制

- ・観光サインの維持管理をスムーズに行っていくためには、行政・地元観光事業者・地域住民の3者の連携が必要となる。
- ・行政任せではなく、事業者、住民が積極的に参画できる組織が求められる。
- ・「ガイドライン」の見直しが生じるような場合等、3者に加え有識者なども適宜参加し、協議していく。



・ガイドラインの見直し  
・観光サインの維持管理

- 地域住民：情報提供（破損、苦情）
- 事業者：日常管理、情報提供（経路、施設変更等の更新）
- 行政：整備台帳の管理
- 有識者：専門的知見からアドバイス

#### (4) 観光サイン整備のチェック項目

| 問題点         |               | 事例   |
|-------------|---------------|--|
| 配置に関すること    | 観光サインの不足      | 観光施設があるものの誘導サインや説明サインがない。  |
|             |               | 主要な道路との交差点や、分岐点に案内サインや誘導サインがない。  |
|             |               | 目的地までの間、誘導サインが少ない。   |
| 設置位置に関すること  | 設置位置          | 街路樹等の陰になり、見づらいものがある。   |
|             |               | 設置位置が高く、車いすの人では上の方は見えない。また低すぎて見づらい。  |
| 連携に関すること    | 情報の重複         | 観光拠点へ向かう道との分岐点では、設置主体の異なる複数の観光サインによって情報が重複している。  |
|             | 地図等との連携       | 手持ちマップと観光サインに記載されている情報が異なる。  |
|             | 景観への配慮        | 観光サインが景観を著しく妨げている。   |
|             | デザインの不統一      | 様々なデザインになっており統一性がない。   |
| レイアウトに関すること | 文字の大きさ        | 文字が小さく、読み取りづらい。  |
|             | 色彩            | 表示する色合いがはっきりしないため、見にくい。(地図全体の配色や字体に視認性が悪い)   |
|             | デザイン          | 過度なデザイン化により、観光サインとしての機能を損なっている。  |
|             | 調和            | 当該施設や施設周辺の景観と調和していない。  |
| 掲載情報に関すること  | 情報の掲載基準       | 休憩所、トイレ、案内所等の案内情報が不足。  |
|             |               | マップ上に情報を詰め込み過ぎており見づらい。   |
| 表示方法に関すること  | ピクトグラムの欠如・不統一 | ピクトグラムが欠如している。地図によってピクトグラムの表記が異なる。   |
|             |               | ピクトグラムがデフォルメされすぎており、対象物のイメージがし難い。  |
| 案内地図に関すること  | 地図の正確性        | 地図がデフォルメされており、距離感覚が混乱する。   |
|             |               | 施設の周辺案内板であるが、現在地の表示が無い。  |
| 言語表記に関すること  | 英語表記          | River、Streetなどの表記がなく、外国人に理解されづらい。<br>ローマ字と英語の組み合わせ表記については、施設種を英語で表現しているものと、ローマ字(日本語の読み)のまま表現しているものがあり、表現が統一されていない。 |
|             | 日本語表記         | 同じ施設でも設置主体によって正式名称であったり、略称で表記したりして統一されていない。  |
| 管理に関すること    | 維持・管理         | 老朽化によって板面が折れ曲がっており補修・交換などの維持管理がなされていない。  |
|             | 情報の更新         | 観光施設の名称変更に伴う表示情報の更新がなされていない。   |